

【4段階評定 4：よくあてはまる 3：おおむねあてはまる 2：あまりあてはまらない 1：まったくあてはまらない】

項目 (教師)(児童)(保護者)	教師・児童・保護者の自己評価		学校運営協議会委員の評価		
	評価	者察	意見(改善策・手立て等)	評価	
確かな学力の向上	授業力の向上（授業がよく分かる児童80%以上、発言する機会が多いと感じる児童80%以上基礎・基本の確実な定着（計算・漢字習得80%以上、国語・算数単元テスト（学期ごと+へ））	教師（3.16） 児童（3.3） 保護者（3.0）	○校内主題研究において、教師一人一人の指導力向上を図るために、子どもたちが主体的に学習に臨むことができる「子どもが主役の授業」の授業改善に努めてきた。 ○来年度は校内研究授業を中心に、全ての子どもが自分の考えをもつことができたと実感できる指導方法の改善と教師一人一人の指導力向上を目指していきたい。 ○学級によっては学力の個別差も大きく、指導においても個別に指導を要する子どものことから、今後も個に応じた指導方法を工夫する必要がある。	○重点事項に基礎・基本の確実な定着があるので、学習内容の理解がどれくらいなのかを教師側、児童側から聞いてみるとわかるかなと思った。 ○先生方のほとんどが授業力向上を意識されており、児童や保護者も「わかる授業」を実感している。 ○教師が授業に取り組む姿勢・創意工夫・個に応じた授業スタイル等、学力の向上に大きな前進があると思います。 ○教師の授業力の向上と、基礎基本の定着は、最も大事なことと考えます。	3.4
	ICT活用の推進（ICTを活用した授業ができる教師80%以上）	教師（3.3） 児童（3.2） 保護者（3.5）	○タブレットの家庭持ち帰りを低・中学年は週1回、高学年は、毎日行っている。授業におけるタブレットの使用も場面に応じた使用が定着し始めた。 ○タブレットの活用が頻繁になった分、機器の不具合も増えってきた。 ○ICTの活用は、学習する上で効果的手段の一つではあるが、一方でDNS等によるトラブルを起こす懸念もある。子どもの発達段階に応じた指導を学年・学級で行っている。	○児童が意欲的に学ぶ基礎・基本の確実な定着を図る上で、ICTを効果的に活用することが大切だと思う。 ○全ての回答で高い評価結果は、日頃の実践の証でしょう。 ○ICTの活用は個人差があって、教師にとっては全体的に目を向けることが困難であり、大変だと思う。 ○ICTを自在に使いこなせる人材育成が大事な項目になると思います。	3.2
	基本的な学習習慣の定着と読書活動の充実（家庭学習目標達成80%以上、個に応じた読書目標の達成率80%以上）	教師（2.85） 児童（3.4） 保護者（2.2）	○学び合いの充実を目指すため、学習習慣の育成を図るために取り組んでいる。（沖水タマナード） ○校内の読書活動については、一人あたり1回の貸出冊数を増やし、年間読書量を増やすように取り組んだ。 ○図書館サポートと連携し、給食時間に校内配達で読み聞かせを行ったり、図書室内の新館図書の紹介や季節感のある装飾等を行ったりし、図書室環境の整備に努めた。 ○今後、気に入り図書に親しんでもらえるように、教室や図書室以外の場所にも本を置いて気軽に本に親しめる環境作りを進めていきたい。	○児童の帰宅後の過ごし方がひと昔前と比べると変化してきており、保護者の評価からもわかるように、読書をする児童は減っている。学校で少しだけでも読書をする時間を確保できればと思うところである。 ○読書の習慣をつけることは、中学校でも同様の課題です。 ○子供達が学習と読書の活動について、それぞれが目標をもって充実した学校生活を送っている。 ○どれくらいの児童が自ら進んで読書を楽しんでいるのでしょうか。SNS等に邪魔されて本を読まない児童・大人が増えたという話を聞きます。	3.1
豊かな心と社会性の育成	学校のルールを守り、よりよい学校をつくる子供（右一静歩ができる児童80%、学校のルールを守っている児童80%）	教師（3.3） 児童（3.6） 保護者（3.4）	○学校のまことに守ることについては、個人差もあり繰り返しの指導や家庭（保護者）への啓発が今後も求められるところである。 ○小中合同で、合同でいさつ運動を2学期と3学期に実施した。また、休み時間の過ごし方とマナーの向上を意識するために、校長室や職員室前は「サイレントゾーン」を設置した。	○各項目の児童の自己評価が高く、意識して生活している様子がわかります。目標は達成されていると思います。 ○小学校で身についた規範意識やあいさつの習慣などを中学校でも継続させていかないといけないと思います。 ○子供達が一人でいる時と集団でいる時では、素養に大きな変化が見られていると思う。公衆道德教育の必要性が重要である。 ○学校での子供達の表情等を見ているとルールを守っている子が多い気がします。	3.3
	元気な挨拶や会釈ができる児童80%	教師（3.3） 児童（3.5） 保護者（3.4）	○進んでいさつをすることについては、個人差もあり繰り返しの指導や家庭（保護者）への啓発が今後も求められる。 ○登校時・下校時に職員の立派指導、地域協力者の「見守り隊」に協力いただき子どもたちの見守りをしていただいている。 ○小中合同で、「あいさつ運動」を2学期と3学期に実施した。また、休み時間の過ごし方とマナーの向上を意識するために、校長室や職員室前は「サイレントゾーン」を設置した。	○児童の基本的な生活習慣の定着は、学校だけでは難しいので、家庭と協力してより定着できるようになるといよいと思う。 ○あいさつがよくできているようになってる気がします。 ○あいさつは、一日の始まりであるこの認識が欠如している子供が多く見られる。家庭から進んであいさつすることを認識してほしい。 ○来校者へのあいさつや会釈はよくなされていると思います。	3.4
	いじめや問題行動の防止・早期発見（いじめの解消100%）	教師（3.25） 児童（3.7） 保護者（3.2）	○いじめ問題については、本人からの訴え以外に毎月のやみアンケート調査から実態把握を行っている。いじめの認識のあった子供には、担任が教育相談を行い、事実の確認・指導及び経過確認をしている。指導後も最低3ヶ月間は経過を見守り新たな問題やいじめの継続が見られないかを確認するようにしている。職員間でも毎月報告会を開き、情報共有を行っている。	○学校生活が楽しいと感じている児童が多いことは、嬉しいことである。 ○いじめや不登校は少なく子供達の学校で威嚇は有意義だと思う。 ○8割近い児童が楽しいと感じていることは素晴らしい。	3.3
健体力の向上と推進	体力テストで県平均を上回る児童80% 基本的な生活習慣の定着と清潔な身なりができる児童（健康チェック達成率80%以上、正しい姿勢で学習する児童80%）	教師（2.4） 児童（3.5） 保護者（3.0）	○コロナ後、5年ぶりに団体編成をして運動会を実施した。 ○体力向上の取組としては、沖水ストレッチ、沖水サークットを取り入れて、体の柔軟性や巧緻性、持久力を高める運動に力を入れた。 ○生活習慣の定着については、定期的に健康チェックを行い、自己的生活を自己評価できる取組を年通で行つた。 ○メディアコントロールの学習を中・高学年は行った。都城警察署に依頼し、偏ったメディア利用による健康被害について考える学習を行った。	○学校の運動場も縮小され、帰宅後の地域にも広い公園がありなく、児童が思いっきり遊べる場所が少ない。体力作りを進めるのは難しいだろうと思う。 ○運動会で一生懸命に競技や演技に取り組む児童の姿がよかったです。 ○6歳生がリーダーシップを発揮している姿は頗もしかったです。 ○全般的に屋外で活動（遊ぶ）することが少なく、家中での遊びに集中している感じがするので改善が必要。 ○地域で子供が外遊びをする姿を年々見なくなつたような気がします。	3
地域に開かれた信頼される学校づくり	積極的な情報発信と地域と協働した活動の充実	教師（3.05） 児童（3.7） 保護者（3.6）	○沖水地区まちづくり協議会をはじめ、地域の方々の協力のおかげで「創立150周年記念式典」並びに「おきみず祭り」を盛大に実施することができた。 ○学校の行事や急な事情による日程変更等のお知らせについては、小まめにメール等を通じて情報発信を行った。	○今後も「おきみず祭り」をいっしょに楽しめるとうれしいです。 ○地域と連携した150周年イベントの開催はすばらしかった。お疲れさまでした。 ○毎年このことについて感じることは、学校と地域がこれほど一体化している学校づくりをしている事は大変評価できる。 ○SNSの発達とともに情報発信力は増したと思います。	3.4